

【巻頭言】

年頭のご挨拶

会長 玉田 彰(53 回生)



新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては輝かしい新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。また、旧年中は学友会活動にご協力いただき心より御礼申し上げます。

さて、学友会では今年の5月に学友会総会を開催する予定です。2年前に予定しておりました広島総会では万全の準備を整えていただいたにも関わらず Web 開催となりましたが、改めて今回の開催をお願いしたところ快くお引き受けいただき、着々と準備を進めていただいております。広島支部の皆様には度重なるご苦勞に感謝申し上げます。開催にあたり前回同様懸念されるのがコロナ感染状況になりますが、現時点では開催を前提として計画を進めているところです。

昨年は知床の「KAZU-I」沈没事故や子供の置き去り死亡事故をはじめ多くの悲惨な事故や事件がありましたが、韓国梨泰院(イテウォン)の雑踏事故には特に心が痛むばかりです。この悲劇では「どうしようもなかった」、「想定外の出来事」といった言い逃れを繰り返す行政に対して「事前に防げた事故」との世評を逃れる事はできません。

最近よく用いられる「想定外」という表現、想定外の雨量、円高、人波などを耳にしますが、言い訳、責任逃れでは特に慣例化しつつあるように思います。

想定外と言えば昨年、私自身にも思いもよらない事が起こりました。昨年年始の巻頭言で「退職を迎え大病を患うことなく職務を全うできた」とのご報告した直後、1月末に受けた成人病検診のエコーで癌が見つかったのです(勿論、何の自覚症状もなく)。昨今の癌の罹患率や自分の年齢からいつ患っても何ら不思議ではないと思いつつも、いざ告知されていたら「何でボクが？」と落ち込んでしまう事には共感していただけるでしょう。幸いにもその後は抗がん剤治療、手術を受け、現在は大好きなお酒を共にこれまで通りの日常生活を送らせてもらっております(勿論、安心はしておりませんが)。

このように社会に於いても個人に於いても想定外からは逃れる事はできませんが、年に一度くらいは私生活や仕事での「手抜き」、「思い込み」、「怠慢」などエラーの因子が何処かに潜んでいないかチェックする必要があるのではないのでしょうか。そこで改めて見直していただきたい点が皆さんの職場です。想定外は無理にしても、せめて現時点で考えられる事態には100パーセント対処できねばなりません。消火器や非常ベルの設置場所を把握せずに仕事をしている技師さんはおられませんか？ずさんな管理と思いつつ日常化している怠慢業務はありませんか？地震、台風、水害、火災や医療事故、患者対応等、すべての角度からチェックしていただきたいとのお願いです。

特に管理職の皆さんには改めて組織、施設、さらにはBPC(事業継続計画)レベルでの対応もご検討願います。

最後に学友会の活動も想定外のコロナにより約3年余り自粛してまいりました。因みに新しく建て替えられた「あづま屋」も未だに使用されずです。

私自身も各支部総会への出席から遠ざかり寂しい思いをしております。よって今年こそは広島での総会を対面で開催し、皆様と再会できる事を心より願っております。

新しい年が更に良い年となるよう祈念いたしますと共に、今一度、皆様方に更なるご協力をお願いいたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

以上